

前回における審議内容について

1. 小学校期のこれまでの取組に対する中間評価と今後のあり方

(1) 「地域の特色を生かした小学生の育ちの仕組みづくり」

- ・地域で子どもを育む機運が高まりつつあり、家庭と学校と地域が連携する仕組みが次第に整いつつあるのではないのかなと感じた。
- ・地域が主体となった活動として、「何もしない合宿」…子どもたちの自主性に任せて大人は見守るだけ。いろいろな小学校区の子どもたちが集まり、子どもたちだけで楽しさを見つけて過ごしており、大人の負担も少ないので、とてもやりやすいと感じている。

(2) 「地域と学校の連携を進める仕組みづくり」

- ・コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の充実
 - 地域の方々も学校運営に関わろうという意識の向上。
 - 関わる大人が限定され、目新しさを感じない。
 - 導入により、地域の核としての役割を果たしていきながら子どもの安全、教育環境の充実というところに注視していくことの必要性。

- ・小規模校の取組み(合同学習の機会、ICT やスポーツを通じた教育環境の充実)

(3) 上記を踏まえた評価と今後のあり方

- ・今後も地域の持続可能な発展を目指して、学校を核として地域全体が一体となって子どもたちの成長を支えることが学校教育だけではなく社会教育、地域づくり、人づくりの面にもつながっていく。
- ・課題として、地域間のばらつき解消を図ることが今後のあり方の一つであり、情報共有して格差是正を図っていくことが今後の在り方の一つとして上がるのではないかと思う。
- ・学校と地域をつなげる役割をもつコーディネーターの配置の充実が望まれる。

2. 中学校期のこれまでの取組に対する中間評価と今後のあり方

(1) これまでの取組状況

- ・地域社会の課題や地域や保護者の意見を尊重した柔軟な再編を推進し、再編されたところは、現状として概ね順調に進んでいる。
 - ・真砂地区(6 かるプロジェクト、公共施設の集約化・多機能化)
 - ・匹見地区(小中同一校舎運営)
 - ・小野地区(令和 8 年 4 月再編に向けて進めている。)
- ・今後の学校再編については、学校を核とした地域づくりを基に地域社会の課題、住民の意見、子どもたちの気持ちも尊重しながら適切な教育環境の維持と教育の質の向上を目指していくということが課題である。

(2) 上記を踏まえた評価と今後のあり方

- ・1 学年複数クラスの設置が見込めない中学校 4 校の検討
(横田中学校、中西中学校、美都中学校、匹見中学校)
- ・令和 10 年度以降の児童生徒数の減少を見据え、状況を地域に周知が必要。

3. 小中学校全体的での整理点

- ・人間関係などに起因して学校に来ることができない児童生徒への解決に向けた取組み。
- ・「学校教育」、「人づくり」、「地域づくり」を一体とした「学校を核とした地域づくり」の継続。